

Ireland



古代の神秘とケルトの誇り

MEMBER:

長谷川翔一 本宮正和 澁谷浩平 宮原英利華
泉澤晴香 相原佳香 秋葉美紀 佐藤礼菜

ニューグレンジ



ニューグレンジは**世界遺産**です。入り口が崩れ落ちてしまったため、長い間発見されずにいた古墳で、自分の家の周りにしく為の石を取りにきた農夫によって発見されました。いまでは、崩れていた部分は復元され多くの観光客が訪れています。入り口は崩れたものの、中は崩れたことがなく、雨水が入ること

なく5000年以上存在し続けています。

ニューグレンジで有名なものの一つに『ルーフボックス』があります。ルーフボックスとは冬至(12月21日)とそれに前後する数日間、夜明けとともに**一条の光線**がここから通路に入り込み、数分間かけて、ゆっくりと墓室へと差し込んでいきます。現地のガイドさんが実際に、電気を使って再現してくれました。段々と光が奥まで差し込んでくる様子はとても美しかったです。

Glendalough ~グレンダーロッホ~



グレンダーロッホは、ダブリン南部のウィックロー州にある7~12世紀に栄えた初期キリスト教会の遺跡です。

7~9世紀にかけてのアイルランドは「学問の島」としてヨーロッパ中にその名が知られており、ヨーロッパ各地から僧侶や学生が集まっていたといわれています。

広い国立公園内にはいくつもの遺跡が点在していますが、中でもラウンドタワー、聖ケヴィン教会や、ケ

ルトの宗教観のシンボルであるケルトの文様とキリスト教のシンボルで十字架が融合されたケルトの十字架が有名です。

ラウンドタワーは東西南北に敵の監視をする窓があり、敵が来たときの隠れ家となっていました。また、鐘を鳴らして時間を知らせる役目もしていました。

ハイクロスは手を回して指が届くと**願い事が叶う**といわれているそうです。何人か届いた人がいましたが、叶った人は・・・

古き誇り高きトリニティ・カレッジ



広い敷地にお城みたいな建物が立ち並ぶアイルランド最古の大学、トリニティ・カレッジ。トリニティ・カレッジにはケルズの書と、それを所有する図書館があります。

そのオールド・ライブラリーはアイルランド国内で最大数の写本、蔵書を所有し、世界有数の研究図書館として知られています。大学建造物の中で、現存

する最古の部分であり、272～292 年にも前に建てられたものです。両側に**天井まで届く書物**には圧倒されます。背丈の何倍もある本棚から隈なく書籍をとりだせるよう、回廊やスライドする梯子など工夫が凝らしてありました。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ジョン・ロックと、西洋の知的巨匠の彫像が立ち並んでいます。

ケルズの書



初期中世芸術が頂点に達した8世紀に、アイルランドの修道僧たちによって完成したケルズの書は、全680ページにわたって**壮麗な彩色**が施されています。本書は、四福音書のラ

テン語本文(古代ラテン語訳とウルガタ訳の混合テキスト)、4世紀にカイサリアのエウセビウスが作成した福

音書対観表、各福音書の梗概、各福音書に関する伝承、ヘブライ固有名詞などで構成されています。**激しい戦火**や、略奪が繰り返されました。1200 年間に奇跡的に生き延び、現在アイルランドの国宝としてダブリンのトリニティカレッジに保存されています。三代彩色装飾写本の一つであり、ケルト的キリスト教美術を代表するものです。

ケルズの書が制作された1000年以上も昔のアイルランドはその人口わずか50万人足らずという規模で、人々は海岸沿いや、内陸の水路に沿って**要塞化**された住居に住んでいました。

当時のアイルランドの教会組織は、ほとんど修道院形式を取っていました。その共同体の中で修道士達は聖書を研究し、断食、肉体労働に貢献する日々を過ごしました。キリストの生涯についてのメッセージは、主として、聖書や神学者、又はアイルランド社会で栄誉ある地位を占めていた聖書の制作者である芸術家達を通じて広がりました。

ケルズの書はラテン語で4つの福音書を描き表したもので、その中には、華麗な装飾を施した頁が含まれています。この書は 561 年頃に、スコットランド西岸沖のアイオーナ島に修道院を建設した聖人、コロムキル(521 年～597 年)と長い間関連付けられてきました。ケルズの書は、おそらく 9 世紀初期の頃にアイオーナ島の修道士達によって完成させられたものか、又は、806 年以降にアイルランドのミース県、ケルズでその一部が制作されたものだろうと思われます。

806 年にアイオーナ島はバイキングに襲撃され、68 人の修道士が殺害されています。

ケルズの書は 1653 年頃に安全な保管を理由に、ダブリンに移されましたが、これはクロムウェル時代のことでした。その後、ヘンリージョーンズがミース県の司教の地位に就いた後の 1661 年にトリニティー大学に寄贈されました。

ダブリンの街ぶらい旅

アイルランドの首都・ダブリン。町並みは古く、建物が連なる商店街は明るい雰囲気…。人々が常に行き交うダブリンの町は意外に都会でした。私たちは休みの日や学校の帰りによくダブリンのメインストリートまで電車で**ふらり**と出かけていました。

そういえば大道芸人が結構いたのを覚えていますね。中にはアイルランドで有名なアイリッシュハーブをひいているおばあちゃんがありました。**キレイな音色で、とってもかわいかった…♪♪**

バブとかもあって朝からビールのジョッキをもって話し込む人がいました。思っていたより都会で、都会なのに街の中は大きな川が流れていて、眺めは良く、建物も古い歴史を感じさせるものから**お洒落**な建物まであって散策していても飽きないです。街の人達は陽気で明るい雰囲気です! まあ、とにかく**活気ある**街でした。

